

Act Locally

Think Globally



SDGs を学ぶ に学ぶ と学ぶ



「見直す つなげる 変わる 地域で、世界へ」
ESD実践事例第2集

横浜市教育局

2019年2月

世界や日本が、企業や行政が、報道やCMが
SDGsに向けて動いています。
では、学校では…

学習指導要領
前文及び総則解説で
これからの学校には、
持続可能な社会の創り手と
なることができるようにすること
が求められています。また、各教科等
でも持続可能な社会の構築やSDGsに
つながる学習内容も充実させる必要があります。

中央教育審議会答申

学習指導要領

実践事例第2集は、SDGsでESDを学ぶ
ことを中心に、横浜のESD推進校22校の取
組を紹介しています。学校でESDに取り組む
ヒントを探してみてください。

ESDの推進

■ SDGsを学ぶ	もくじ	4
■ SDGsに学ぶ		8
ESD推進校一覧(ユネスコスクール全国大会揭示)		11
■ SDGsと学ぶ		14
・ SDGsは、かけ算やつながりで		15
・ 4つのレンズで捉え直すと		21
・ 見直す つなげる 変わる 地域で 世界へ		24
・ ESDは学校運営とカリキュラムデザインの両面で		32
■ 交流報告会		34
「わたしたちはこう考えます ESDとSDGs」		
コンソーシアム委員から		38

ESD を「SDGs で学ぶ」

SDG s
を学ぶ

SDG s
に学ぶ

SDG s
と学ぶ

学校に合ったいろいろなESDを
学校に合ったアプローチで
学校に合ったペース、スタイルで

「教育が全てのSDGsの基礎」であり、「SDGsの実現が教育に期待されている」と言われています。特に、ESDは持続可能な社会の創り手の育成を通じて、17全ての目標の達成に貢献するものとなります。ESDを推進することが、SDGsの達成に直接的・間接的につながります。

そこで、SDGsが掲げる17の目標をESDの実践に取り入れ、今後のESDの充実に役立てていきましょう。ESDをSDGsで学んでいくのです。

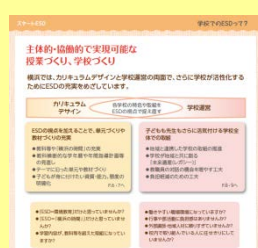
ここでは、学校教育におけるSDGsの取組について、「SDGsを学ぶ」「SDGsに学ぶ」「SDGsと学ぶ」の3つのフェーズで考えていきます。

ESDを通じたSDGsへの貢献の事例

- ①SDGsについての学習
- ②特定のSDGsを意識した取組
- ③特定のSDGsの課題に貢献する取組
- ④SDGs全体への貢献を意識した取組

(文部科学省 資料より)

ESD推進のための教職員研修資料では・・・



ESDをカリキュラム
デザインと学校運営の
2面で考える



「見直す つなげる 変わる
地域で、世界へ」のレンズで
考える



「世界へつなげる視点」として
SDGsを活用する
Think Globally、Act Locally



を

つなぐ

SDGs



SDGsは、2015年9月に開催された「国連持続可能な開発サミット」で、2030年に向けた国際社会全体の行動計画として全会一致で採択された、169の関連ターゲットを伴う17の目標です。

「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性※のある社会の実現のための、2030年を年限とする世界を変えるために、幅広い関係者が連携して取り組むことが重視されています。

教育だけでなく、社会全体が目指す目標であるSDGsは、企業や行政が既に取り組んでいます。教職員と児童生徒が一体となって、SDGsを意識していくことで、世界に通じる視点をもって臨みましょう。

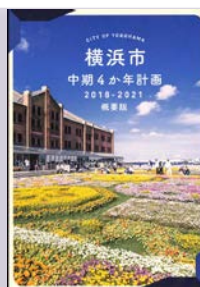
※包摂・・・多様な人を社会や組織に取り込む。インクルーシブ。

「誰一人取り残さない」持続可能で 多様性と包摂性のある社会へ



SDGs 未来都市

・2018年6月に「SDGs未来都市」「自治体SDGsモデル事業」に選定され、国と連携し、またオール横浜で取り組み、その成果を内外の都市と共有する。



横浜市中期 4か年計画

・SDGsの視点を踏まえた取組となるよう、中長期ごとにSDGsの目標に関わるか関連付ける。



横浜教育 ビジョン2030

・「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人」を目指し、『グローバルな視野を持ち、持続可能な社会に向けて行動する力』を育む。



第3期横浜市 教育振興基本計画

・施策3「持続可能な社会の実現に向けて行動する力の育成」で、SDGsとの関係性を意識した教育活動の展開。

横浜市のSDGsに関する施策

持続可能な開発目標（SDGs）とは

持続可能な開発目標（SDGs）とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）^{P7参照}の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。（外務省HPより）

【普遍性】 先進国を含め、全ての国が行動

【包摂性】 人間の安全保障の理念を反映し「誰一人取り残さない」

【参画型】 全てのステークホルダーが役割を

【統合性】 社会・経済・環境に統合的に取り組む

【透明性】 定期的にフォローアップ



東高校ESDDAY 7月11日

東高校は、2018年7月にユネスコスクールに認可されました。「国際理解教育」と「地域貢献活動」の二本柱について、半日かけて生徒による発表、講演、ワークショップを行いSDGsへの理解を深めました。

○生徒発表 ボランティアをやってみると面白く、どんどん視野が広がっていったという内容で、身近なところからの取組が、地球規模の環境問題につながっていくという、SDGsを絡めた見事な発表でした。

○JICA 横浜講演 中野貴之さんによる「私と世界の課題 ～国際ボランティア経験から～」の講演がありました。ご自身の途上国でのボランティアで得たもの、学生時代の思い出から現在の仕事に至る中野さんの生き方を学びました。

○メディア総合研究所ワークショップ 地域に潜む身近な問題について今の自分の住んでいる地域と15年後の将来を結びつけることで、問題解決の「課題」を発見し、それがSDGsとつながっていることを確認しました。



	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる End poverty in all its forms everywhere
	飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する End hunger, achieve food security and improved nutrition and promote sustainable agriculture
	あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する Ensure healthy lives and promote well-being for all at all ages
	全ての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する Ensure inclusive and equitable quality education and promote lifelong learning opportunities for all
	ジェンダー平等を達成し、全ての女性及び女児の能力強化を行う Achieve gender equality and empower all women and girls
	全ての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する Ensure availability and sustainable management of water and sanitation for all
	全ての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する Ensure access to affordable, reliable, sustainable and modern energy for all
	包摂的かつ持続可能な経済成長及び全ての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する Promote sustained, inclusive and sustainable economic growth, full and productive employment and decent work for all
	強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る Build resilient infrastructure, promote inclusive and sustainable industrialization and foster innovation
	各国内及び各国間の不平等を是正する Reduce inequality within and among countries
	包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する Make cities and human settlements inclusive, safe, resilient and sustainable
	持続可能な生産消費形態を確保する Ensure sustainable consumption and production patterns
	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる Take urgent action to combat climate change and its impacts
	持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する Conserve and sustainably use the oceans, seas and marine resources for sustainable development
	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、並びに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する Protect, restore and promote sustainable use of terrestrial ecosystems, sustainably manage forests, combat desertification, and halt and reverse land degradation and halt biodiversity loss
	持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、全ての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する Promote peaceful and inclusive societies for sustainable development, provide access to justice for all and build effective, accountable and inclusive institutions at all levels
	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する Strengthen the means of implementation and revitalize the global partnership for sustainable development

【参考】 ★ミレニアム開発目標（MDGs）



- 2001年に国連で専門家間の議論を経て策定。2000年に採択された「国連ミレニアム宣言」と、1990年代の主要な国際会議で採択された国際開発目標を統合したものである。発展途上国向けの開発目標として、2015年を期限とする8つの目標（①～⑧）を設定。
- ①極度の貧困と飢餓の撲滅 ②初等教育の完全普及の達成 ③ジェンダー平等推進と女性の地位向上 ④乳幼児死亡率の削減 ⑤妊産婦の健康の改善 ⑥HIV/エイズ、マラリアの蔓延防止 ⑦環境の持続可能性の確保 ⑧開発のためのグローバルなパートナーシップの推進
- MDGsの評価例
 - 極度の貧困半減（目標①）や HIV・マラリア対策（同⑥）等を達成。
 - × 乳幼児や妊産婦の死亡率削減（同④、⑤）は未達成。



★持続可能な開発目標（SDGs）実施指針

平成 28 年 12 月 22 日 SDGs 推進本部決定

実施指針付表骨子（具体的施策） 【関連抜粋】

1 あらゆる人々の活躍の促進

（注）特に関連が深いと思われる：1（貧困）4（教育）5（ジェンダー）8（経済成長と雇用）10（格差）等国内（子ども）

- 子供の貧困対策の推進（内閣府）【1.2】
- （教育）
 - 初等中等教育の充実（文部科学省）【4.1】
 - 幼児教育の充実（文部科学省）【4.2】
 - 高等教育の充実（文部科学省）【4.3】
 - キャリア教育・職業教育の充実（文部科学省）【4.4】
 - 特別なニーズに対応した教育の推進や男女共同参画を推進する教育・学習の機会の提供（文部科学省）【4.5】
 - 外国人留学生の受入（文部科学省）【4.6】
 - ESD（持続可能な開発のための教育）・環境教育の推進（文部科学省、環境省）【4.7】
- （差別の解消）
 - 「心のバリアフリー」の推進（法務省）【10.3】
- 国外（教育）
 - 平和と成長のための学びの戦略（外務省、JICA）【4】
 - 官民協働プラットフォームを活用した日本型教育の海外展開（文部科学省）【4.1、4.2、4.3】



こどもエコフォーラム

12月2日(日)大榎橋ホールにて、「環境絵日記展」(主催:横浜市資源リサイクル事業協同組合)の中で、ステージとブースで環境を中心とした取組を発表しました。永田台小と三保小他が参加しました。

(協力: WWF ジャパン)

横浜は
SDGs 未来都市



環境絵日記にもSDGs

環境をSDGsで考え絵と文章で表現することや、SDGs別のコーナーも新設しました。





SDGsに学ぶ

E S Dは、「人類が将来の世代に
わたり豊かな生活が確保できるよう、
気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、
貧困の拡大等、人類の開発に起因する現代社
会の様々な問題を、一人ひとりが自らの問題と
して主体的に捉え身近なところから取り組み、それ
らの問題の解決につながる新たな価値観や行動等を生
みだすことで、持続可能な社会を実現していくことをめ
ざして行う教育活動」です。

E S Dを通してSDGsに貢献するだけでなく、SDGsを
E S Dを充実するために活用すること考えられます。例えば、
世界がどのような社会の形成や価値観を求めているのかを、SDGs
「に」学ぶことができます。SDGsについて考えることで、E S Dを進
める方向性を見だし、世界につなげたり将来に向けて考えたりする
ことができます。

ここでは、SDGsに学ぶ方法として、研修会や授業づくり講座での例を紹介します。
教職員の研修で、児童生徒がE S DやSDGsを考える機会を活用しましょう。

- ① SDGsを17枚のカードにする
- ② テーマをもってカードを基に話し合う
- ③ グループで協議しながら、ダイヤモンドチャートに
置いてみる
「SDGsで大切と思うこと」「すぐに取り組める
こと」「すでに取り組んでいること」等
- ④ ワールドカフェ形式で他のグループの考えをシェア
する
- ⑤ 自分のグループものを見直す
振り替りを記録する

指導：佐藤真久教授(東京都市大学)

「SDGsがめざすものは何か？」

授業づくり講座

「SDGsをどう扱うか」

ESD推進校研修より

- SDGsカードのダイヤモンドチャート化で、価値や意味を考える。
- 「国内の持続可能に関わる課題」（参考：社会課題解決中マップ）をダイヤモンドチャート化で、その意味やSDGsとの関係性を見る。



g



「SDGsで大切と思うことは？」

ユネスコスクール全国大会 ワークショップ

第11分科会
横浜の児童生徒が考えるSDGs



11(まち)、12(生産と消費)、17(パートナーシップ)は、みな大切と思っている。でも、自分たちには働き甲斐やイノベーションは、まだピンとこないなあ。



これまでSDGsについて学習してきたユネスコスクール4校と、会場校の児童生徒34名が、「2030年の世界を考えたとき、あなたがSDGsで一番大切だと思うもの」を1つ、次に大切だと思うものを4つ選び、その理由を考えて話し合いました。「SDGsがめざしている2030年の未来の姿」をテーマに、「ダイヤモンド・ランキング」を活用して、グループごとに話し合いを行いました。その後、話し合った成果をワールドカフェ形式で共有し、参加者から未来の社会を担う子どもたちにアドバイスをもらいました。また、参加者が子どもたちの話し合いを受けた上で議論を行い、改めてSDGsについて考え、今後の活動のヒントを共有できる場としました。

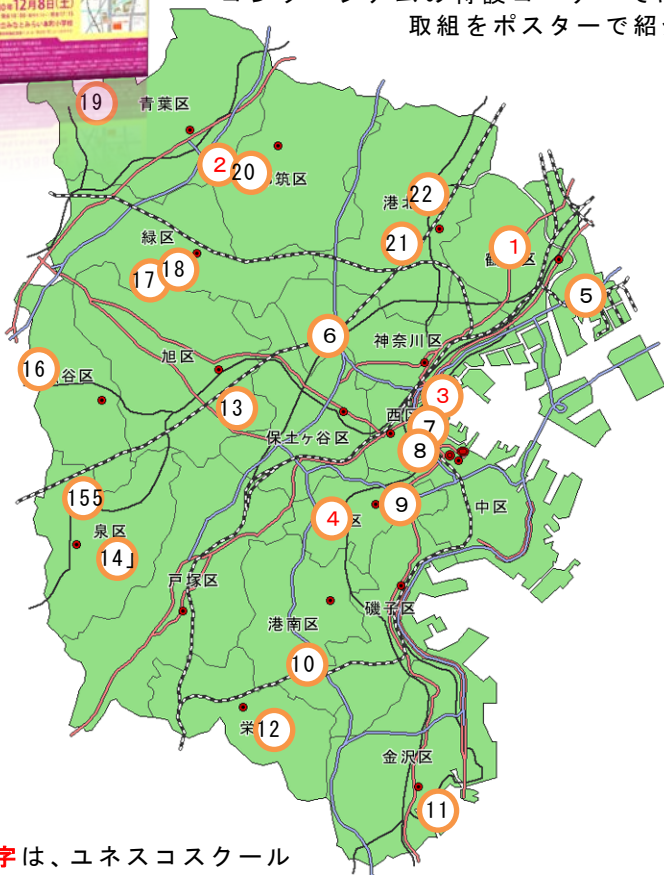
参会者アンケート

- これが正解であるという結論が出ないワークショップであるが、とても参考になった。午前中の特別対談で出てきたとおりの「論旨明快に考え、相手の立場を感じながら論旨明快に表現」していた。
- 子どもたちが自分の言葉で語る姿がすばらしかった。たくさんあるSDGsの目標を理解するためにも、この手法は有効だと思った。
- 一人ひとりが自分の考えをもち、発表できていてよかった。各グループでリーダーの進め方で、いろいろな表現が出ていてよかった。
- 年齢が違う子どもたちが、しっかり自分事としてSDGsをとらえ、自分の考えを発言している姿、そして他の人の考えを尊重して聞く姿はすばらしいと思った。
- SDGsの中で大切なものを伝え合う中で、世界で実際に問題となっている事例に注目したり、自分たちができることは何かという視点に立って考えたりする子が多くて驚きました。子どもたちがもっている輝きや力を引き出すために、教員がESD、SDGsとの結び付きを学校教育の中で創作していくことが大切だと感じました。
- ダイヤモンドをつくるスピードの差は、合意形成のスピードの差だと思う。早いチームは、意見の求め方が上手だった。驚いたことに自分の周りのことだけではなく世界目線をもっており、日頃から世界情勢を知る機会があると思った。



ユネスコスクール全国大会、横浜で

2018年12月8日(土)に横浜市立みなとみらい本町小学校を会場に、第10回ユネスコスクール全国大会が開催されました。横浜市ESD推進コンソーシアムの特設コーナーでは、推進校の取組をポスターで紹介しました。



2018年度ESD推進校 22校



1 東高等学校



2 市ヶ尾中学校



3 幸ヶ谷小学校



4 永田台小学校



⑤ 潮田小学校



⑥ 羽沢小学校



⑦ みなとみらい本町小学校
※会場校として各教室に実践掲出



⑧ 戸部小学校



⑨ 日枝小学校



⑩ 港南台第三小学校



⑪ 金沢小学校



⑫ 本郷小学校



⑬ 南本宿小学校



14 中和田中学校



15 いずみ野小学校



16 大門小学校



17 新治小学校



18 三保小学校



19 恩田小学校



20 荏田西小学校



21 太尾小学校



22 北綱島小学校



E S Dを考えると、世界へつながる視点として、SDG sを意識することが考えられます。

SDG sを直接扱わなくても、教師が単元や教材を考えるとSDG sに関連させることは、複数のゴールにつながることはできないか、学習後に子どもが振り返ったときにSDG sをイメージできるかなど、まず教師がSDG sを意識することから始めましょう。すると、子どもはSDG s「と」学んでいる状況になります。

『横浜の時間』であれば、探究課題、学習材、関係機関を探す視点にすることができます。各教科等であれば、学習内容に応じて適切なSDG sを複数かけ算のように考えてみるすることができます。

学校運営面でも、学校や地域、職員室などで、今の状況を見直すときにちょっとSDG sとつなげてみると、新たなヒントになるかもしれません。

無理にSDG sを前面に出すことがなくても、子どもは学習している中でSDG sに触れています。後でなってSDG sを振り返ったときに、気付くことがあってもよいのです。

学校での取組は きっとどれかの SDG s「と」 つながっている



第2回の交流報告会に集まった児童生徒は、自分たちの取組がどのSDG sのつながるかを共有したとき、どのグループも一つとして残さず全てのゴールにつなげました。

SDGsは、 かけ算やつながりで

学校でのSDGsを考えるとき、ひとつのSDGsだけで考えるのではなく、「かけ算」で考えましょう。複数のSDGsの想定が大切です。

地域や社会とつながる教育を考える学校では、4「教育」、11「地域」、17「パートナーシップ」は親和性が高いものです。まずは、このうちのどれかとつなげることはできませんか。



まずはかけ算 SDGs×SDGs

学習につながるのの一つではないと考えましょう。ESDは、かけ算で！



「福祉」は、健康な体だけでなく地域で共生



「防災」で地域と連携
「水」を中心に探究



国際交流の機会があれば可能性は広がる



SDGs～SDGs～SDGs～

単元や教材につながるの？

『横浜の時間』につながるものから、他の教科等へ

単元や教材の価値を広げ、世界や未来につなげましょう



全てのゴールにつながるか考えましょう

学校全体で SDGs

委員会活動は、全校で、全教職員が関わります。ホールスクールでの取組の第一歩として、港南台第三小学校では子どもたちが各委員会の活動がどのSDGsにつながるかを考えて活動しています。



野菜で地域の人に喜んでもらおう



普段、当たり前のようにあるまちの畑で野菜作りの活動をすることで、改めてそのよさを実感したり、そこで働く人たちの思いに触れたりすることで自分のまちをもっと好きになってきました。また、農家の方との触れ合いを通して、その方たちの食に対する思いに迫っていけました。

20年以上続く活動は、過去の活動とつながっており、今後も脈々と受け継がれる学校の伝統として持続していくものです。自分たちが動き出すことが次の活動につながったり、行動を起こすことで思いが実現できたりする経験を通して、少しずつ主体的になってきています。教師も材に対する価値分析がさらに深まってきました。



羽 沢 小 学 校

米づくりから地域へ



毎年5年生は米づくりをしており、田んぼも広く大変でただ作業だけで終わってしまい、その活動から広げて考えていくことができないことに気が付きました。そこで、現状の活動から広げていくことを考え、わらを使った活動として地域コーディネーターに教えてもらう方を紹介してもらい、わら箸づくりを行いました。

活動が盛んになると、自分たちの活動がいろいろな方に支えられていることに気が付きました。地域の方の協力に感謝の気持ちをもつだけでなく、自分たちにできることを考えるようになりました。また、田んぼがあるよさにも気付き、自分たちが住む地域への思いを新たにしました。



新 治 小 学 校

海の森



海の環境をよくするものとして海そう(草・藻)について調べ、海の生き物にとって海そうはなくてはならないものであり、酸素を出し二酸化炭素を吸収したワカメを食べることで二酸化炭素を減らし地球温暖化対策にもつながることなどを学んでいます。しかし、アマモやワカメを育てるのは冬が適しており子どもたちの思いを途切らせることなく年間通して活動するために単元計画の見直しが必要だと考えています。社会科のゴミや水の学習を実感し、八景島シーパラダイスの方から海の環境を守る取組や海への思いを聞き、地域の海を守る活動に参加することで、自分たちにできることを実践しようという気持ちを持ち、一緒に金沢の海を守ろうという意欲につながりました。



金 沢 小 学 校

バガス素材の皿で環境にやさしい文化祭



文化祭では毎年大量のごみ、特に調理販売で使ったプラスチック食器があるので、何とかできないか？と考え、バガス素材に注目しました。バガス素材は、燃やしても原料のサトウキビが成長過程で吸収した CO₂ が大気中へ戻るだけで、CO₂ 排出量としてはプラスマイナスゼロとなり、CO₂ の削減と温暖化の防止にも役立ちます。また、土の中に埋めると微生物などによって分解され、2～6ヶ月で土に戻ります。そこで、「チームバガス」を発足しバガス素材の周知と土に返すプロジェクトを実行しました。初めてだったのでとにかくバガス皿を埋めることだけに集中し、文化祭全体のごみも確実に減らすことができました。ごみの減量や有効な埋め方の検証等研究を進めていきたいと考えています。



東 高 等 学 校

まちを知って、人と出会って、まちの宝物を見つけよう



支援を要する特別支援学級の子どもたちにとって、まちの様子を理解したり地域の方と知り合ったりする活動は価値のある活動です。自分の住むまちが安全で、災害に強く、持続可能な場所にしようとする市民へ成長するために、SDGs の視点から児童が自分の住むまちを見直し、まちやまちに住む人を価値付けることで、まちに対する見方を捉え直していくことができると思いました。普段何気なく歩いているまちを、SDGs の視点を基に児童が何度もまちを調査することで、新たな発見から疑問が生まれてきます。見いだされた問題から、児童と地域人材とのつながる機会を増やし、地域の材を子どもたちが価値付けていくようにしました。



港 南 台 第 三 小 学 校

学校保健委員会をきっかけに始まるSDGs



「水」の取組はイメージしにくいので、全校対象に国連WFPの方に飢餓や貧困についての講演をしていただきました。世界の子どもたちの生活を知り、日本の水がどれだけきれいで安全かという事に気付きました。講演後、学校保健委員会にて学校薬剤師の方に水について講演をいただき、硬水・軟水・水道水を飲み比べし、水道水のおいしさも気付くことができました。2年生は、学級活動(2)で「人と水～脱水症状にならないために～」というグループ活動を通して自分の生活を見つめ直すきっかけにしました。1年生は社会科の自由課題「おなか空いた、なに食べよ」というテーマの作文を書くことで世界の子どもたちの4日分の給食に変化するという取組に180人近い生徒が参加しました。また、取組を文化発表会で展示することで、地域の方々やその他たくさんの人へ伝えることができました。

中 和 田 中 学 校

ZERO WASTE



ゴミの学習から、プラスチックの便利さを知りながらも危険性を感じるようになります。金沢焼却工場に見学や海の公園で話題のマイクロプラスチックを拾うことで現実的に感じ、何かできることがないか自分たちの生活を見直しました。プラスチック以外にも紙や金属など多くのリサイクル可能なゴミを見つけられました。地域のサークル「竹遊会」と関わり、おもちゃ（紙鉄砲）や箸、太鼓のバチと、竹で遊ぶことを教えてもらいました。昔ながらの竹に親しみ、手作りの面白さや竹の味を感じたり、プラスチックの便利さを知りながらも竹がゴミ問題に大きく役立つのではないかと思ったりして、自然のよさと、社会の問題と結び付けられるようになってきています。



永田台小学校

いずみ野発、食育行



給食で出た生ごみを見直し、EM菌を用いて堆肥にして再び農業生産活動に生かすことができるようする取組を4年生がしてきた。社会の学習でゴミと思われがちなものも再生できるものもあることや3Rなども理解してきた。身近な生活に置き換えて考えるために給食で出る生ごみに着目し、生ごみを堆肥として再利用して自分たちの農業生産活動等に生かす活動に取り組みました。

EM菌による生ごみの堆肥化で、「地産地消」が1サイクル単独ではなくスパイラル構築となり得ることを意識化し、持続可能な社会を目指して自分たちの取り組んでいる農業生産活動を見直したり、「無駄なもの」という見方を考えて自分たちのできることを考えたりすることができました。



いずみ野小学校

特別養護介護施設のみ なさんもハッピーに



各学年の柱になっていたテーマありきで総合をスタートしていたことを、子どもたちの思いや願い、教師側の思いや地域の人との関わりを大事にすることに見直しました。国語の教材文から地域の人たちももっと楽しい生活が送れないかを考えるようになりました。2020 東京オリンピック・パラリンピックがあることから、パラスポーツ「ボッチャ」の資料を置いておき、子どもの興味を高めることで、自分の思いや願いをもって探究していくことができるようにつなげました。特別養護介護施設の居住者と「ボッチャ交流会」などをして、自分たちの思いだけでなく、お住まいの方の気持ちも考えるようになりました。施設のマネジャーが学校教育に関心があり、今後も持続的な交流が可能です。



恩田小学校

泳げる大岡川に



まち探検で大岡川の様子を見直し、生き物が棲んでいるにもかかわらず、多くのごみが捨てられている様子に問題意識をもち、自分たちの生活を見直しました。「大岡川は、棲んでいる生き物にとって良い環境と言えるのか」子どもたちは問題意識をもちました。ニュースで多く取り上げられている「マイクロプラスチック」の問題は自分たちの身近に起こっている問題であることを知り、きれいな大岡川を未来に残すために自分たちができることに取り組んでいこうと活動を始めました。「ストロー使わない大作戦」では、横浜乳業や日本製紙の方々や、大岡川の調査では水中カメラマンの方など、様々な人と関わる中で、「一人ひとりにできることは小さくても、自分にできることをやっていかなければいけない。」という思いをもつように変わってきました。



日 枝 小 学 校

10才Y E A Rに



身近にあるけれどあまり知らないでいるコミュニティハウスという存在に目をむけ、どんな所なのか考えたり、調べたりすることから地域の人と関わるきっかけ作りをしました。コミュニティハウスの館長さんやつながり、自分たちが見学、体験させてもらったいくつかの団体の中から興味をもった団体と連絡を取り、交流を深めました。交流を重ねることで、活動していることの楽しさや関わってくださった人たちの優しさに触れることができました。たくさんの方と関わることを学び、郷土愛の心を育むことができました。



本 郷 小 学 校

未来に桜並木を残す



桜が南区の木として大切にされていることや、伐採されたり切り株になっていたりする桜があることに気付きました。持続可能なまちをつくるために自分たちができることを考え、「桜を50年後、100年後の日枝のまちに残す」ことを目指して活動を始めました。

活動を進めていく中で桜が好きになり、桜を大切にしていきたい、桜を未来に残していきたいという思いをもつようになり変わってきました。南区役所の方やまちの人の思いを聴いたり、桜を何度も繰り返し観察したりする中で桜に向き合う態度に変化が見られました。

桜を植樹するためにまちに出て募金活動をしたり、適した場所をまちの中で探したりする中で、地域の方と一緒に活動したり、地域の方の思いを大切にしながら活動の方向を決めたりしようとする態度が見られました。



日 枝 小 学 校

地域との関わりが増す「届けよう、服の『チカラ』プロジェクト」



ユニクロの港南台バーズ店の方を招いて、難民の問題や服のもっている「チカラ」について話してもらいました。届けられた様子を動画や写真で見たりすることで、子どもたちは、「自分たちも参加したい」「この活動を広めたい」という意欲をもちました。世界の問題を身近に感じ、地域の方にも協力してもらいたいという思いに変わっていきました。校内で服の収集活動に取り組みましたが、地域へも活動を広げるために施設場所や担当を話し合い、お願いしたり回収に行ったりする活動に取り組みました。地域の施設の方とのコミュニケーションも増え、1万着を超える子ども服を集めることができ、子どもたちは達成感を味わい、他のSDGsの問題についても取り組みたいと考える子どもが多くいました。



港南台第三小学校

留学生と関わって



「世界中の人と仲良くなりたい」という大きな夢の実現に向けて、まずは周りにいる他の国から来た方たちと交流して相手の国の文化について教えてもらいました。食べ物や挨拶について教えてもらい、「全然違う国だと思っていたけど日本と似ていることもたくさんある。」と気付きました。お礼として、漠然とした日本というよりも自分たちが住むまちの日本らしさを伝えたいという思いが高まり取材していきました。改めて多くの日本らしさがあること、それぞれの場所を大切に思う人たちがたくさんいること、長年大切にされて文化として成り立つことが多いことに気付き、自分たちも日本らしい文化を大切にしたいと考えてるようになっていきます。



戸部小学校

パラスポーツを通して



「地域の方とかかわりたい」という思いが強い子どもたちと、どのような関わり方ができるかを話し合ったところ、「だれもが参加できる」をキーワードにパラスポーツにヒントを求めていきました。その中で「共生社会」を目指してボッチャを広めている方に出会うことで、他者を思いやる気持ちや共に助け合うために自分たち必要なことは何かを考える姿勢をもつようになりました。また、スポーツを一緒に行うことを通して、コミュニケーションが生まれ、仲を深めることができると考えるようになっていきます。



まずは地域で、経験や能力が、やがて世界へ



戸部小学校



「横浜の時間」を4つの レンズで捉え直すと



地域との関わりを大切にしながら、まちに住む人々の幸せを願い、学級の仲間と共に、学級単位で課題や学習材を設定し、連続・発展させていく探究的な学習活動に取り組んでいます。『横浜の時間』をE S Dの4つのレンズで捉え直してみました。



戸部小学校の取組

各学級では4月に今年の総合的な学習の時間の学習材を決めるため、戸部のまちに出て、まち探検をします。戸部のまちの人や自然、歴史等のよいところを探したり、逆に戸部のまちが抱えている問題に気付いたりすることにより、その学級ごとに一年を通して追究していきたい対象を戸部のまちの中から探しています。

今年の5年生の実践では、地域にある公園をまち探検し見直してみると、自分たちが想像しているよりも多くの植物があることを知りました。同時に、落ち葉や枝などが多く落ちていることに気が付き、「身近な公園をきれいにしたい」「落ち葉や枝を使って、自然のよさを表現したい」という思いをもちました。学校図書館の本で「昔は落ち葉や枝を使って染料にしていたこと」を知り、草木染めをしたいという思いを高めていきました。

15年間という長い研究実績から戸部小学校は、非常に強い地域とのつながりがあります。電話一本でケアプラザにて、朗読劇の発表をさせてもらえたり、地区センターのお祭りに学級単位で発表の場を用意してもらえたりします。放課後に子どもだけでお店を訪問して店主の方やお店の写真を撮らせてもらって取材をさせてもらえます。また、どうしても問題を解決することができなくて困ったとき、子どもたちから地域の人でこの問題を解決できるような専門家はいないのか、という声が上がってきます。



協働作業を進める中で、子どもたちは問題を解決するための方法を学び続けています。同時に、身近なまちにある何気ない文化的な価値やそれを大切に守ろうとしたりする人たちの思い、共に助け合うために自分たちに必要なことは何かを考える姿勢など身に付けることができました。草木染めをすることで、子どもたちは草木染めのことをどんどん好きになりました。はじめは、絵の具のような鮮やかな色を出したいと思っていた子どもたちが、「草木染めの色には絵の具にない奥深い色がある」「同じ染め液を使っても二度と同じ色を出すことができない、世界で一つだけの作品を作ることができる」「掃部山公園のサクラで染めた布からは、サクラの良い香りがして、教室にいても桜の花を感じられる」と、色を見る目や作品を楽しむ感覚を育てていきました。

子どもたちは各学年において、様々な材で地域と関わりをもって学習を積み重ねてきています。そのため、総合的な学習材を決める段階でどの学級においても必ず挙がる意見が、「地域と関わりたい」「地域の人と仲良くなりたい」「地域の役に立ちたい」です。それは、学年が上がれば上がるほど強くなっていきます。地域の人に自分たちが好きな草木染めの良さを知ってもらいたいという思いからコミュニティハウスのお祭りに参加し、ブースで自分たちの作品を展示しました。休日にも関わらず8割の子どもが発表に参加し、自分たちの活動を地域に向けて発信しました。現在子どもたちは、草木染めで作ったコースターをコミュニティハウスに置かせてもらい、より多くの人に草木染め作品を使って、その良さを知ってもらいたいという思いから活動をしています。

地域の関わりを大切にしたい総合的な学習の時間を通して、将来持続可能な社会づくりの担い手である子どもたちが、目の前にある課題を自らの問題として捉え、それらの問題を解決していくための方法や能力、感性を育てています。



「野毛山動物園の動物の魅力を多くの人に知ってもらいたい」という思いの実現に向けて、野毛山動物園の動物を観察したり、飼育員の方と話をしたりして、動物の魅力を感じてきました。その野毛山動物園の動物の魅力を、神経衰弱のようなルールの絵合わせカード「野毛山GO」に表現し伝える活動を通して、地域の人々とつながり、野毛山動物園がある戸部のまちを大切にしようとしています。



海の環境教育・海苔づくり
金沢小学校



マリンフェスタ
金沢小学校



やすらぎの池復活大作戦
港南台第三小学校



いずみ野農業小学校
いずみ野小学校



エッセンの魅力にせまれ
羽沢小学校



おいしいぬか漬けを作ろう
羽沢小学校



競技かるたの面白さ
羽沢小学校



あきからそだてるやさい
恩田小学校

広がる、学校でのESD



環境づくり
新治小学校 大門小学校



みんなに優しいまちづくり
三保小学校



竹林の間伐材を
三保小学校



海のピンチ_マイクロプラスチック
幸ヶ谷小学校



学援隊とつながる
北綱島小学校



**受け継げ!日本の伝統〜めざせ
和菓子職人** 太尾小学校



守れ ふとおビオトープ
太尾小学校



未来にお囃子をつなげる
日枝小学校



EMPOWER Project
市ヶ尾中学校



修学旅行とSDGs
市ヶ尾中学校



生き物も人も超ハッピーなとんぼ池をつくろう 本郷小学校



もったいない大作戦
日枝小学校



学校全体の教育活動を 4つのレンズで捉え直すと



一年間の教育活動をE S Dの4つのレンズで捉え直すことにより、学校行事や宿泊体験学習、日々の授業などが、世界的な問題を解決につながり、今の自分たちにできることは何かを考えることができました。



南本宿小学校の取組

全校を挙げて教育水田活動に取り組んでいます。12月8日(土)には収穫を祝う「南本フェスティバル2018」を行いました。そこで、日頃お世話になっている10名の水田指導者に感謝を伝えるために、地域の方々、保護者が一丸となって計画や準備を進めました。

今年度はE S Dをより意識した改革を進めました。準備を行う教職員や保護者双方の負担軽減や学校事情を勘案した計画にしました。30余年続く、この伝統行事を持続可能なものにするため、用具の配置や児童の動線、異学年でのもちつきから、きょうだい学年同士のもちつきに変更するなど、抜本的に変更したことで、次年度につながるようにしました。

6年生が「日光修学旅行」に行ったときに、足尾銅山とSDGsをつなげて考えました。当時の足尾銅山は日本の産業発展に欠かせない場所であった一方、公害が生じ、被害を受けた方が多くいたことを学習しました。足尾環境学習センターで、公害によって森林がなくなってしまった足尾の山に緑を戻す植樹体験をしました。その後、宿泊ホテルでさらに理解を深めるための学習会を開催しました。

そこで、SDGsの17の目標のうち、①お金、②健康、③産業、④まちづくり、⑤陸や海の自然の5つからプラス面やマイナス面を考え、班で話し合いました。全ての項目をバランスよく取り組むことの大切さに気付きました。



「南本フェスティバル」では、教育水田活動がSDGsとどのように関わっているのかを考えました。

6年生は、修学旅行や日々の授業でSDGsを意識できていたため、想定を超える考えが出されました。例えば、「教育水田に必要な場所やものは何か」を分析してみると、SDGsで謳われている「14海の豊かさ」「15陸の豊かさ」の大切さにすでに気付いている児童がいました。これまで、陸と海とのつながりを大切にし、系統性を考えた学習を進めてきた成果が表れたと考えます。

3年生は、高学年同様に教育水田活動とSDGsを結び付けて考えました。「12つくる責任、つかう責任」では、「米を作って終わるだけではない」「食べきれなかったら、ごみになって考えてしまうから工夫していけると思う」と考えた子どもたちがいました。また、「2飢餓をゼロに」では、「日本はいろいろな整備がされているのだから、貧しい国にも分けられるのではないかと考える子どももいるなど、様々な側面から教育水田活動について見直すことができました。

2年生は、教育水田活動での体験がまだ少ないので、生活科と絡めた学習を行いました。教育水田や近くの南本宿公園での探検を通して、「3健康」や「15陸の豊かさ」と関連づけて考えました。さらに、自分なりの言葉で理由を考えることで周りのSDGsを自分事として捉えることができました。

6年生の総合的な学習の時間では、「地域のアピールポイントに新たな価値を加えよう！」として、南本宿地域にある、人やもの、出来事などをまとめ、思考ツール等を使用しながら地域の魅力について見直しました。すると、ゆかりのある人物として畠山重忠公が活躍したことが分かりました。6月に社会科見学として訪れた鎌倉の地にまで関係が広がっていることを知り、地域を越えて影響が及んでいることに子ども自身も気付いていました。地域の魅力発見から、広い範囲で人や出来事が関わっていることがわかり、物事を見る視点が広がっていったと考えます。

また、学校間での交流として、教育水田活動で東京都の稲城第二小学校のうるち米と本校のもち米を交換しました。本校と同様の活動をしている学校の様子を知るなど交流を深めています。

見直す

・生活科や主に学級ごとに取り組んできた総合的な学習の時間について、より地域に根ざした材から活動を創るように見直し、地域で行動していく中で、さらに持続可能な社会の一員、地球市民としての自覚を促すような活動となるように考えました。



つなげる

・例えば、自分たちの総合的な学習の時間の活動が、どのSDGsの視点とつながるのかということ子どもたちと一緒に考えて取り組みました。実際には、地域に伝わるカルタをもっと地域の人たちに親しまれるように考えたり、凧揚げ大会をもっと盛り上げようと取り組んだり、また地域で荒廃する竹林問題を取り上げたりと、SDGsの11の視点「住み続けられるまち」につながるような活動に取り組みました。



変わる

・生活科・総合的な学習時間の発信の場であるフェスティバルでは、開閉会式での子どもたちの言葉や、各学級で子どもたち自らがSDGsについて説明したり感じたことを発表したりという場面が見られました。子どもたちの意識の中に強く根付き始めていることが感じられました。

・今回、自分たちの住む地域の身近なことから材を選び、その活動をSDGsにつなげていくことで、地域の方々には様々な思いや願いがあり、自分たちもその課題について何か行動できるということ、足元の課題を解決していくことが、地球規模の課題解決への第一歩だという認識をもつことができました。

大門 小学校



見直す

・社会科の学習で食糧生産の実態を学習し、身近な食材に外国産が多いことを知りました。総合では稲作における、田起こし、田植え、稲の管理及び収穫を通じて、米作りの大変さを学習しました。また、宿泊体験学習では、農作物の収穫を通じて、収穫することの楽しさと喜びを体験しました。さらに、給食で残菜の量を目の当たりにし、食べ物の大切さについて考えるようになりました。

つなげる

・社会科で学習したことや体験学習で学んだことをもとに、食糧生産に関心をもちつつ、地域の食料事情に目を向けます。潮田地域には外国人が多く住んでいて、外国の料理のお店が多くあります。そのような地域の特徴に注目して、潮田地域ならではの外国料理について、調べていきます。



変わる

・地域の外国料理のお店を調べていくと、多くの外国料理店があることに気がきました。また、外国料理だけでなく、日本国内にも地域の特徴を活かした料理(郷土料理)があることを知りました。それぞれが関心をもった国や郷土料理を調べていく中で、食の多様性に気がきました。外国料理の調べ学習を通じて、潮田地域の新たな魅力を再発見することができました。

潮田 小学校



地域で

世界へ

見直す

・みなとみらい地区は東京湾に面した地域にもかかわらず、子どもたちにとって海は「見るもの」にでした。そこで、高島水際線公園での活動を通して、子どもたちの目の前の海に対するイメージを見直そうとしました。



つなげる

・公園愛護会やハマ海会の方と一緒に、汐入の池での生き物観察活動をすることで、手長エビやカニ、ハゼやボラといった魚、それらを食す水鳥などたくさんの生き物が生息する貴重な場所であることを知りました。一方、ごみがあったり、ヘドロがたまっていたりと環境に課題があることも知りました。また、都会の公園でありながら利用者が少ないことに、疑問をもつようになりました。

変わる

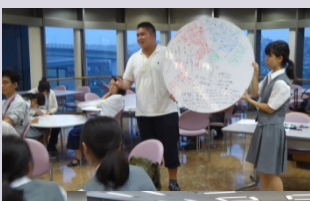
・活動のゴールを「公園のよさをもっと多くの人に知ってもらおう」とし、公園のよさをまとめたり利用者へのインタビューを進めたりしました。すると、美しい景色や鉄道などの公園のよさにも気付くとともに、「今の静かな環境が公園のよさ」という意見にも出合いました。「『静かがいい』という少数派の意見を無視して、このまま広めていいのか」と悩んだ末、「地域の方の意見をもっと集める」とし、地域2500世帯へアンケートを実施しました。「アンケートで初めて公園のよさを知った」「アンケートがあり、初めて行った（調べた）」「活動を進めて、もっとよさを教えてほしい」と地域の方の公園に対する考え方が変えることができました。

みなとみらい 本町小学校



見直す

・「地域の中にある学校」という視点で、改めて地域を見直すことで、身近なまちの課題に向き合い、解決方法を模索しています。



つなげる

・青葉区に住む豊かな経験をもつ大人たちと中高生が、課題解決に向けた話し合いを重ねることで、さまざまな考え方や生き方を学んでいます。昨年度、青葉区とNPOで立ち上げたプロジェクトですが、学校行事である文化学習発表会での取組の発表や区民祭りへの参加などで校内や地域での認知度も上がっています。県立市ケ尾高校ともつながりました。

変わる

・地域の大人たちや高校生と協働することで、課題解決に向けた手立てや方法を主体的に考えられるようになりました。また、自分の思いや考えを相手に伝える話し方にも変容が見られています。自分たちのまちを良くすることは、広くは地球環境について考えることにもつながっています。



市ケ尾 中学校



見直す

- ・4月に開校したみなとみらい本町小学校。開校宣言の文面でもある「持続可能な社会の担い手の育成」を目指して、学校教育目標を全職員が関わって検討しました。
- ・みなとみらい地区は、さまざまな企業が立地し、豊かな社会資源を活かした教育活動が考えられます。地域の材（人・モノ・コト）を活用しつつ、どのような目標をもって教育活動を進めるべきかを考えました。



つなげる

- ・子どもの実態をもとに、「10年後に育ってほしい子ども像」を教職員で話し合い、その姿に近づけるために必要な「資質・能力」を考えました。そして、「まちに愛着をもつ」「豊かな心をもつ」「多様性を認められる」「多面的・多角的に捉える」「問いを見いだして学び続ける」の5つの資質・能力に分類し、それらを束ねるものとして、学校教育目標「みな（皆）とみらい（未来）を創る子」を策定しました。



変わる

- ・授業場面において、特に生活科・総合的な学習の時間の活動の中で、資質・能力にせまってきました。各学級の活動を職員で共有するために、内容・連携する外部機関・SDGsの視点などをまとめ、職員室に掲示しました。子ども同士で共有をはかるために、12月には中間報告会「みな（皆）とみらい（未来）を語る会」を開きました。子どもたちは、活動とESDとのつながりを意識し始めました。1月には資質・能力の中からいくつかを選択し、その視点での公開授業を行いました。職員の意識も変わってきています。

みなとみらい
本町小学校



3	すべての人に健康と福祉を	3 年 5 年
6	安全な水とトイレを世界中に	4 年
12	つくる責任 つかう責任	3 年 4 年 6 年
13	気候変動に具体的な対策を	6 年
14	海の豊かさを守ろう	4 年 5 年
15	陸の豊かさも守ろう	1 年 2 年
16	平和と公正をすべての人に	6 年

見直す

- ・生徒会本部役員会の提案で「SDGsをもっと身近に感じてもらう。」とSDGsの17の目標をカードにし、校舎内外に掲示しています。自分たちの行動がSDGsの何に結びつくのかを日々考える手立てになっています。道徳や学活で学んできた「SDGs」が自分たちの生活にどう結びついているのかを改めて見直してみました。また、各種委員会の活動がSDGsのどの視点で行われているのかを、中央委員会で話し合い、見直してみました。

つなげる

- ・校舎内外を見渡すと「SDGs」の目標と結びつけられる場所がいくつもありました。
- ・例えば、ゴミ箱等



変わる

- ・教室や特別教室、グラウンドなどにカードを掲示したところ、「SDGs」の認知度がより高まり、自分の行動を意識することができるようになりました。また、教室に掲示してあることで、各教科の授業でも取り上げやすくなりました。SDGsに示されている課題解決を意識した行動を一人ひとりができるようになると、2030年の未来は変わっていきます。SDGsを知り、行動を起こす力を養うことが世界を変える力になります。

市ケ尾
中学校



校内環境の改善に、ポスターやSDGsのプログラムをよく見かけます。SDGsにすると・・・

見直す

・算数の授業実践の中で、E S Dの視点を意識して授業作りを行っています。“単元の流れの中のどこに”E S Dの視点が見られるか、“1時間の授業の流れの中のどこに”E S Dの視点が見られるかを、教員が視点を意識して授業を作りました。また、実践する中で視点を意識して取り組むことで、子どもの態度、算数授業としての思考の深まりを求められるのではないかと仮定して研究に臨んでいます。



つなげる

・各学年の指導計画の中に、E S Dの視点を入れることで、E S Dと算数で育む能力・態度が他教科の単元でもつながりがあることが明確になりました。この指導計画を使っていくことで教科横断的な視点で授業の構想ができるようになりました。また、算数科では、つながりのある単元でも低学年と高学年では、育てたいE S Dの能力・態度が異なるなど、学年に合った能力・態度が適切であることが分かってきました。



変わる

・教師がE S Dの視点をもって単元を計画することにより、意識的に授業の構成やデザインをしていくことができます。また、教師が意識することにより、子どもたちもE S Dの視点で物事をとらえていくとする意識が芽生えてきています。友達の意見と比較し、関連付けながら試行していくことで、更に思考が深まってきています。算数の授業で学んだことを、日常生活の中で活用する視点を育てていくことを実践していきます。

荏田西
小学校



算数で身に付けた視点を、他教科の中で地域との関わりの中で活用したり、社会問題について考える際の軸として使用したりしている

見直す

・以前より東高校では部活動や有志のボランティア活動とともに、帰国生徒による自身に在住した国の文化等について発表や、留学生との交流やUNIS/UN（ニューヨーク州国連学校学生国際会議）への参加等が続けてきました。これらの取組を通じて、生徒たちは学校外の多くの人々とふれあうことからいろいろなことを学んでいます。



つなげる

・ボランティアでは、感謝の言葉をいただいたり、ほめていただいたりすることから自己有用感が高まり、さらに次の行動への意欲につながっていく好循環が見られます。



変わる

・国際理解の取組からは、自分が知らなかったことを聞いたり調べたりすることや、異なる文化や価値観にふれることで興味が深まり、外国語等の学習意欲がさらに高まる生徒も見られます。
・今後はこれまでの取組を継続しつつ見直す中で、生徒自身が主体的に、よりSDGsを意識した取組ができるようにしていきたいと考えています。

東
高等学校



ユネスコ国際理解の取組を、E S Dの視点で捉え直ししてみたい。

見直す

・地域の豊かな自然をカメラで撮影し、発信する活動を行ってきました。自然と関わっていく中で、豊かな自然が維持されていることはそれらを守っている地域の方々の方が大きいと感じています。これらの気づきから、自然と併せて人や地域の魅力を見直し始めています。



つなげる

・5年生までの活動で多くの方々と関わってきました。6年生では、これまでの活動の振り返りから再度地域を見直し、まちの魅力や人との関わりから自他のキャリアについても考えを深めています。人との関わりの中で、自分たちが地域を守っていく一員としての自覚をもとうとしています。



変わる

・「魅力あるまちの自然」を撮ることから、「魅力あるまちの人々」を撮ることへ、表現したい内容が広がりを見せ始めています。自然も人も表情が豊かであることに変わりはないのですが、どのような瞬間を撮るのかは視点も技術も新しい考え方が必要です。また、肖像権の問題もクリアしていかなければなりません。市内でも有数の自然豊かなまちの魅力を伝えることは、このまちの一員としての責任であると考えています。

三保 小学校



見直す

・夏休みの課題研究として、生徒一人ひとりが一番興味や関心のあるSDGsの17の目標からテーマを1つ選び、テーマについての個人研究に取り組みました。
・夏休み期間を利用し、生徒が各自でテーマについての研究を行い、レポートにまとめあげました。夏休み明けには各自の研究の成果を共有できるようにクラス毎で発表会を行いました。そして11月に特に優れた取組を行った生徒が学年全体で発表する場を設け、個人の研究をクラスへ、学年へという形で共有できるように設定しました。

つなげる

・ESD推進校の生徒としてESDやSDGsについての見識をもってほしいということと、探究活動として何か取り組めないかと考え、課題研究を変えました。
・課題研究を行うために、最初に総合学習の時間でSDGsについての説明を学年全体で行いました。初めてSDGsという言葉を知った生徒も多かったこともあり、研究テーマを決定するまでに本校の行事の「ESD day」や上智大学よりお借りしたSDGsに関するパネル展示するなど生徒がSDGsについて触れる機会を多く設定しました。

変わる

・昨年度までは自分の興味のある進路についてや、大学のオープンキャンパスに参加してのレポートにまとめ発表という形でした。今まで以上に生徒が調査や考察をしっかりと行ってきたこともあり、発表時間をオーバーするクラスも続出しました。次年度以降もレポートの書き方などを指導し、探究活動を促すよう指導していく予定です。この取組を通じて生徒一人ひとりのESDやSDGsへの意識が高まりました。



東 高等学校



夏の課題研究を、SDGsからテーマを設定してみることに見直ししました。

見直す

・委員会活動では、学校をよりよくしていこうとそれぞれの委員会ごとに工夫して活動に取り組んでいましたが、自分たちの活動がどのように役立っているかを実感することが難しいと考えていました。そこで、委員会の活動を見直すために、SDGsを活動の中に取り入れることにしました。学校をよりよくするために工夫したことが、実は、世界の問題にもつながることを子どもたちが実感でき、委員会活動への意欲を高めることができました。



つなげる

・委員会の所属を決める前に、5・6年生を対象にSDGsについてのオリエンテーションを行いました。そして、年間計画を立てる際に、委員会ごとに、自分たちがどのSDGsに取り組みたいか、どんな活動ができそうかを話し合うようにしました。例えば、環境委員会では、12「つかう責任つくる責任」、13「気候変動に具体的な対策を」について、給食委員会では、2「飢餓をゼロに」、14「海の豊かさを守ろう」、15「陸の豊かさを守ろう」についてというように、委員会の活動とSDGsをつなげるようにしました。

変わる

・委員会活動にSDGsという視点を取り入れることで、まず子どもたちの姿が変化しました。委員会活動について意欲的に取り組む児童が増えてきました。また、委員会からの提案も増え、委員会活動が活性化されていきました。しだいに、教職員の中にも、SDGsの意識が浸透していき、子どもたちの活動をサポートできる体制も整っていきました。



港南台第三小学校



学校といふ身近なところをよりよくしていくことが、実は世界の問題に取り組んでいることにつながることに気付きました。

見直す

・5年生の社会科で、我が国の食料自給率が約40%であることや、稲の作付面積が年々減少していることを知りました。また、輸入に伴う食の安全性についても学習をしました。様々な課題を抱えている日本の農業ですが、田んぼのもつ価値について生物多様性、防災、キャリア等の視点から再度考え直す必要があると考えています。



つなげる

・米作り以外にも、「森の学校」を行っています。先輩方が植樹した木々を手入れするため、毎年、学校林の下草刈りに取り組んでいます。新治市民の森から湧く水は、自分たちが活動する田んぼへと流れ、恩田川、鶴見川、やがて海に注ぎ込んだ後、雲となり再び森に雨を降らせます。単なる水の循環だけではなく、人々の環境への配慮の循環にも気付くことができている。

変わる

・田んぼの役割りとして、これまでの子どもたちの意識は「食べ物を作る場所」でした。しかし、学習を進めるうちに大きなビオトープになっていること、水を貯めるダムとしての役割があることも知りました。また、体験を通して農業の大変さを感じることで、食に対しての意識も少しずつ変化しています。



三保小学校



見直す

・40周年実行委員による「おめでとう集会」だけでなく、児童会委員会活動ごとに40周年をお祝いする企画を考えました。代表委員会で全校児童に図り、内容や季節を考えて年間計画を立てました。



つなげる

・たてわり活動を最大限に生かすために、40周年に関わるイベントはたてわりグループやペア学年で取り組めるようにしました。
・地域とのつながりを重視するために、活動内容は地域代表の実行委員会にも相談し、協力をお願いしました。記念キャラクターの着ぐるみを作っていただきました。

変わる

・周年行事は高学年を中心に活動を進めることが多いですが、代表委員会の提案から、全校児童に呼び掛け、デザイン、ケーキの土台作りなどすべてを4年生が行いました。40周年お祝いの大切な活動を自分たちでやり遂げた経験や達成感が、来年度高学年として学校運営の原動力となるのではないかと考えまし

北網島
小学校



見直す

・バザーから始まったこのおまつりも、今年で10周年。これまで児童は「お客さん」としての参加がほとんどでしたが、今年は運営面で放送席の担当や記念品の配布などにも関わり、おまつりを盛り上げました。



つなげる

・6年1組は「総合的な学習の時間」で、自分たちの住む「太尾のまち」について調べました。その学習で、地域と「梅」とのつながりに興味を持ったことから、自分たちで梅ジュースを作り、このふるさとまつりで販売しました。友達や保護者はもちろん、一般のお客さんからも大好評でした。

変わる

・実際に販売を体験することで、子どもたちは働くことの喜びを感じたり、企画力や責任感を高めたりすることができました。また大人も、子どもたちが運営に参加したことで、その可能性を知りました。
・このおまつりを通して、子どもたちがこれからも「住み続けられるまちづくり」の意識をもち、「未来をひらく」力が育成されました。

太尾
小学校



見直す

・年間を通して一緒に学んできたPTAとして何かできないかということで、WFPのレッドカップの販売することにしました。



つなげる

・全校での講演、学校保健委員会、文化発表会と共に活動し、WFPのレッドカップ販売が、一つの売り上げにつき世界の子どもたちの給食8日分に変化するということで、保護者から世界へつなげることができました。

変わる

・当日は、保護者のみの販売としていたが、生徒からも購入したいと申出があったりしました。この一つの活動でも、生徒たちの心には届いているということ、そして年間を通しての取組が伝わっていることを実感しました。

中和田
中学校



地域で

世界へ

見直す

・これまで防災関連の授業(参観)は、その時間限りのイベント的な(特活)授業が多かったのですが、今では社会科や理科、算数、そして道徳など、多くの教科で実施できるようになってきました。また新学習指導要領に合わせて、ESDを取り入れた年間指導計画の見直しも進めています。



つなげる

・防災拠点訓練には、町内会・自治会と一般参加者だけでなく、学区内のマンション代表、消防団、PTAなど、地域にいるさまざまな立場の方々が参加し、実際に災害が起こった時を想定して備えています。また学校運営協議会主催の「ふるさとまつり」では、防災備蓄庫の資材を使って炊き出しをするなど、多くの行事が防災につながっています。子どもたちは、自分の親や近所の大人の姿を見て、自分の行動を考えています。

変わる

・校内で通年実施している避難訓練は、「自分の身の安全は自分で守れる」ようになることや、「助け合える仲間になる」ことを目標に、さまざまな災害を想定して月に1回程度実施しています。以前、地域で実際に緊急地震速報が流れた時には、児童は教職員がいなくても決められた行動をとるなど、成長を見ることができました。いつかこの太尾の地域や横浜、そして世界で活躍できるよう、その基礎となる力を身につけさせたいと考えています。

太尾
小学校



でいつか地域や横浜、そして世界で活躍できるように、その基礎となる力を身に付けさせたい。

見直す

・従来の学校で行われていた授業実践や研究会の在り方、また行事や校務の在り方を当たり前とせず、「持続可能か」「子どもにとっても大人にとっても価値あるものか」といった視点で見直しを行いました。

つなげる

・年間を通してESD推進部が定期的に会議を開き業務の見直しを行いました。ホワイトボード・ミーティングを活用することで、一部の教職員の意見のみで話し合いが進まないよう、各自に発言が保証されることを意識した話し合いを行いました。

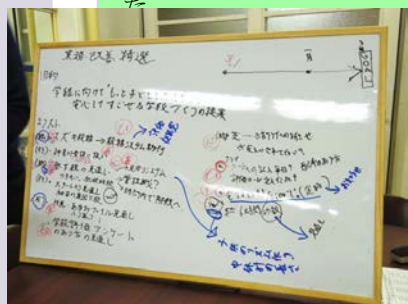
変わる

・ESDの視点をもった研修会や話し合いをすることで、従来あった行事や校務について「昨年度もあったから」「変えるのが大変だから」という思考ではなく、クリティカルシンキングな視点で、本当に「持続可能なとりくみか」「これからの幸ヶ谷小にとって必要か」を考えた話し合いを行うことができました。その話し合いを通して改善案を考える中で、「学校を変えよう」という意識が教職員に醸成されていきました。

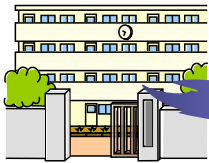
幸ヶ谷
小学校



大幅な児童数の増加で学校づくりの見直しが必要となる。運営協議会等でも検討中。学校



マイクロプラスチックや世界食糧計画を扱う、委員会活動など全校で取り組む場面から始める、学校各所にSDGsが貼られる。身近なところから世界へつながるところまで、SDGsでESDを進めるアイデアを次々出していただけるとのものと、学校の力を改めて感じています。この実感こそ、ESDとSDGsを学校教育で考える価値だと思います。



永田台小学校

赤ちゃんからお年寄りまでみんな集まれ「つながり祭」

子どもたちのパワーを地域活性の活力へ。2ヶ月に1回、空き店舗となった南永田団地商店街でお祭りを開催。地域、学校、行政が一体となって協力をしながら運営している。

子どもたちは、地域の方から「君たちはこのまちの宝だ」と言われたことで、「高齢化の地域を元気にしたい」「地域の人をつなぐ場をつくりたい」と自己変容をした。友達や家族を巻き込み、そして地域の人と共に「つながり祭」に参画してきた。自分が変容することで、社会も変容していくことができることを経験した。これは今後「生きる自信」へと繋がる。身近な他者を大切にすることが、地球規模課題への取組の第一歩であると考えている。つながり祭のすべての活動は、地域そして世界へとつながっている。



- 【活動例】・開始前に地域のゴミ拾い活動⇒小学3年生以上が自主的に参加。【環境保全】
- ・不用食品の回収⇒子どもや高齢者施設で活用される【食品ロス削減への取組】
 - ・ステージ発表⇒子どもたちの音楽発表、教職員の器楽演奏、地域のお年寄りのギター演奏、ハーモニカ演奏、民謡などなど【心のケア・人とのつながり】
 - ・永田台小 PTA によるうどん屋さん【安全で健康な食】



SDGs プレミアムプログラム ～17's プレゼンテーション～



横浜メディアビジネス総合研究所のご協力で、SDGsに取り組む横浜市の17の企業や個人によるワークショップを行いました。最初にオリエンテーションとして関東学院副学長小山氏による講演を行いました。短い時間でしたが、とても力強いお話で、「ESDは人間がAIに仕事を奪われないための勉強です」という言葉が印象的でした。その後、生徒はそれぞれのワークショップに参加しました。今回のワークショップでは、生徒からあえて第1希望しかとらず、あとの2つはランダムに振り分けました。自分の興味関心の範囲外にも目を向け、様々な取組を知ってほしいという狙いからです。学校にお

東部高等学校

いては、「高大連携授業」や「オープンキャンパスへの参加」等で、生徒は大学に関する学習はしても、その後、働くことに関する学習はなかなか実施することができていませんでした。今回の企画で、その壁を打破できたことは大きいと思います。生徒は、それぞれのワークショップに真剣に取り組み、普段の授業では得られない知識を得ることができました。

参加企業・団体個人（順不同）

- ・凸版印刷株式会社
- ・株式会社大川印刷
- ・株式会社イトーヨーカ堂
- ・株式会社 JVC ケンウッド
- ・NPO法人 つるみままっぷ
- ・株式会社伊藤園
- ・株式会社協進印刷
- ・キャタピラジャパン合同会社

・西本梨江

- ・NPO法人 アークシップ
- ・イオンリテール株式会社 南関東カンパニー
- ・一般社団法人 未来技術推進協会
- ・株式会社セブン-イレブン・ジャパン
- ・生活協同組合パルシステム神奈川ゆめコープ
- ・ラジオ日本
- ・横浜高速鉄道株式会社
- ・横浜市政策局 共創推進部

スタートESD

主体的・協働的で実現可能な授業づくり、学校づくり

横浜では、カリキュラムデザインと学校のためにESDの充実をめざしています。

カリキュラムデザイン

各学校の特色ESDの視点

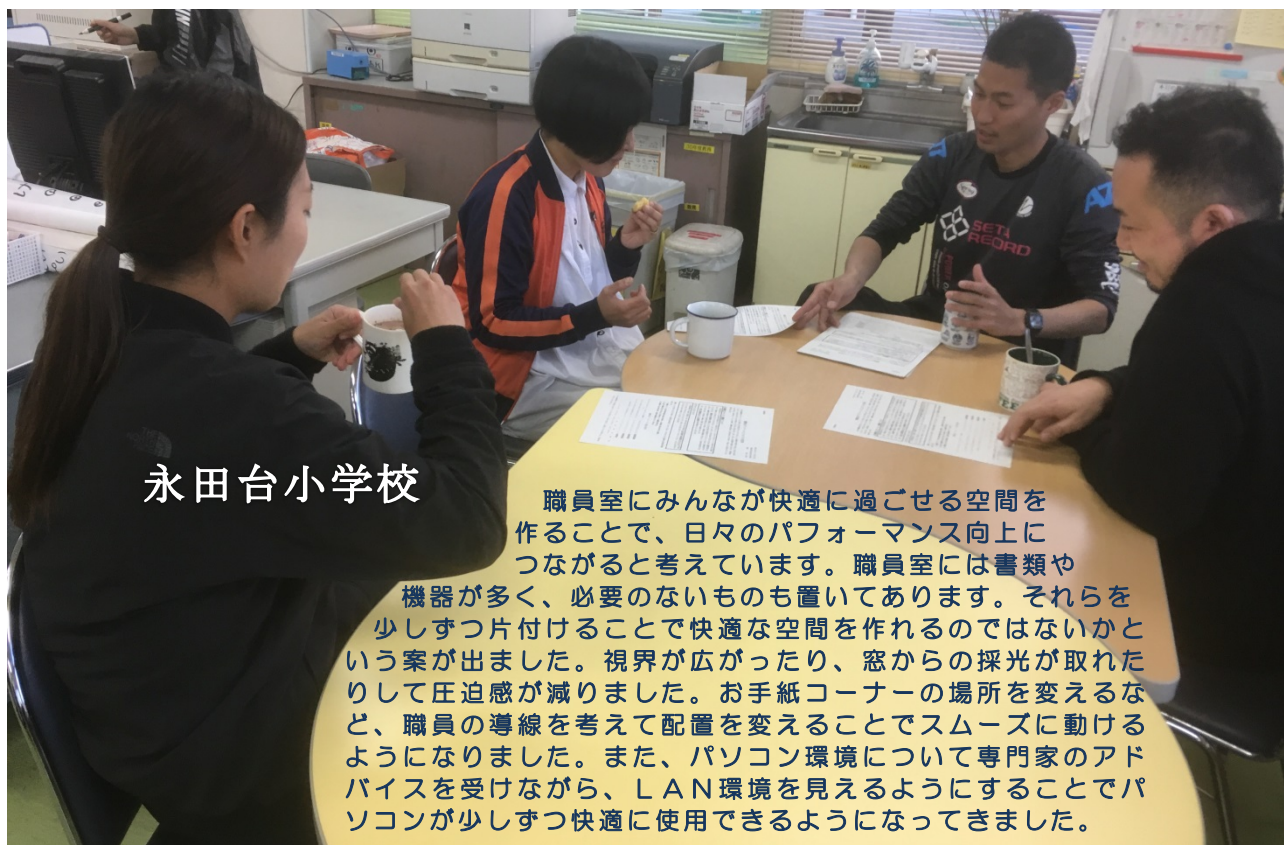
ESDの視点を加えることで、単元づくりや教材づくりの充実

- 教科等や「横浜の時間」の充実
- 教科横断的な学年・年間指導計画等の見直し
- テーマに沿った単元や教材づくり
- 子どもが身に付けたい資質・能力、態度の明確化

P.6・7へ

- 「ESD=環境教育」だけと思いませんか？
- 「ESD=「横浜の時間」だけと思いませんか？
- 学習内容が、教科等を超えた取組になっていますか？

カリキュラムデザインの両面で



永田台小学校

職員室にみんなが快適に過ごせる空間を作ることで、日々のパフォーマンス向上につながると考えています。職員室には書類や機器が多く、必要のないものも置いてあります。それらを少しずつ片付けることで快適な空間を作れるのではないかと案が出ました。視界が広がったり、窓からの採光が取れたりして圧迫感が減りました。お手紙コーナーの場所を変えるなど、職員の導線を考えて配置を変えることでスムーズに動けるようになりました。また、パソコン環境について専門家のアドバイスを受けながら、LAN環境を見えるようにすることでパソコンが少しずつ快適に使用できるようになってきました。



児童数の大幅な増加に伴い、教職員数が大幅に増え職員室が手狭な状況になっている。働きやすく効果的な職員室とするべく、現在感じている課題を出し合い、新しい職員室づくりを行う。

ESD推進部が中心となり、新しい職員室の必要性や新しい職員室のデザインなどを検討してきた。多くの教職員からも賛同の声を得ることで、取組を進めていくことができています。新しい職員室のデザインについてはホワイトボード・ミーティングなどを活用して、発想を柔軟に出し合い前向



幸ヶ谷小学校

きな雰囲気醸成されることを意識した。

現時点で職員室のリニューアルはまだ行われておらず、本年度末に実施する予定である。また職員室の作業スペース確保に伴い、図書室の設置など学校内のいくつかの教室や倉庫の移動なども検討している。

しかしながら、従来、人が行き交うことも難しかった手狭な職員室の作業スペース広がることへの教職員の期待値は大きい。また、協力いただいているコンサルタントの方から効果的な職員室づくりに対する研修を行っていただく予定である。学校外の知見を得ることで、教職員の視点も変化することが期待できる。

慣れ親しんだ職員室の変化はPTAをはじめとする地域の方にとっても影響が大きいはずである。地域の方々にも気持ちよく使って頂けるためにも、新しい図書室や職員室、校内の教室配置デザインについては、ご意見をいただく予定である。

学校のESDって？

運営の両面で、さらに学校が活性化

学校運営

子ども先生もさらに活気付ける学校全体での取組

- 地域と連携した学校の取組の推進
- 学校が地域と共に創る「未来遺産(レガシー)」
- 教職員の対話の機会を増やす工夫
- 負担軽減のための工夫

P.8・9へ

- 働きやすい職場環境になっていますか？
- 行事や部活動に負担感はありませんか？
- 外部講師・地域人材に頼りすぎていませんか？
- 校内で取り組んでいる人に任せきりになっていませんか？

ESD 推進校によるポスターセッション



日枝小学校の体育館に集まった約 150 名の ESD 推進校の小学校 3 年生から高校 3 年生までの児童生徒が、各学校での取組をポスターで、フリップで、実物で、タブレットの中の映像で発表し、交流しました。他校の話から、次にやってみようというヒントや活動の仕方、似た活動をしての気づきの共有などがされました。



教職員等 79 名

保護者 45 名 総計 272 名

交流報告会

平成 31 年 2 月 2 日 (土)
於：横浜市立日枝小学校

児童生徒の部



児童生徒によるワークショップ

「これまでの学習を通して、SDG s 17 のゴールについて、これから何ができるか」
学校が違う約 10 名グループで中高校生がリードして話し合いました。



「昔は、中学校で男は技術科、女は家庭科だったらいいんだけど、今は男女共に技術家庭科として学んでいる。日本は、ジェンダーや平等について考えている方なのかな。」
「ある国では、食べ物のために子どもが働かなければならなくて、学校行くところではないらしいよ」「でも日本でも、大学入試で不平等な問題があったよね」



【児童生徒の感想より】

- SDG s で今までやっていたこと、やってなかったことをみんなで考えていると、SDG s のことがよく分かってきたと思った。(小 3)
- それぞれの学校の取組みは違っていったけれど、目標は全て未来の地球をよくするためだったので、できないかもしれないが世界各国で行えば 2030 年までに解決できると思いました。(小 5)
- 小さなことを意識しているだけでも SDG s を達成することにつながると思った。グループで話して、もっと SDG s に関心をもった(小 6)
- SDG s はスケールが大きいのが多いけれど、よく考えたら身近にできることがたくさんあると感じた。みんながやれば、かなり効果があると考えた。(小 6)
- 知らない学校の取組を聞いていると、自分たちの活動に取り込みたいと感じました。小学生と中学生で考え方がまったく違うと感じましたが、新たな発見も得ることができました。(中 2)

「MM 本町のトイレ行って、きれいってことより男女同じ色で、SDG だなと思った」



「快適な暮らしって、住みやすいってこと？ 便利ってこと？」



【東洋大学 米原先生から】SDGs の抽象的なゴールを、自分たちの言葉で「翻訳」し、身近な学校や地域でできることを考える姿が見られましたが、それぞれの文脈で SDGs を「自分事」にしていくことが、ESD の大事ポイントです。そして、皆で知恵を出し合って、一緒にやっていくことも大事ポイントです。いろんな人とつながりながら、場合によっては外国の人たちともつながって、「一緒にやってみる」ことのよさを経験できましたね。



教職員 の部 2019.2.2 Sat. @横浜市立 日枝小学校 交流報告会



横浜市内からE S D推進校以外からも含め教職員40名、企業・N P O・他コンソーシアム等から19名、横浜市E S D推進コンソーシアム（教育委員会スタッフを含む）19名、総計75名の参加者が、交

流と研修を開催しました。基調提案を東洋大学の米原あき教授、カリキュラムデザインの提案を三保小学校和泉良司校長が行い、その後4～5名のグループに分かれて「学校で行っているE S DをS D G s（17の目標）で表現する」「E S Dを広めていく方策」についてグループワークをしました。



米原先生「発信」のためのデザインを考える

- S D G s は、「全部やれ！」ではない。解釈(翻訳)次第。
- E S D をどう広めるかのデザインを考えることが必要。
- E S D の実践にはいろいろな濃度がある。スクールマネジメント、クロスカリキュラム、適合しやすい科目・活動にE S Dを導入するなど。
- E S D を広める方法として、合同教員研修や、他校・他地域との交流イベント以外に
- 良い案はないだろうか？キレイゴトではない難しさとも向き合おう。
- 「それぞれの場所で(＝ローカリゼーション)、みんなで(＝パートナーシップ)」
- →ローカリゼーション:ココでしかできないこと、ココだからできることを見直そう
- 【キーワード:地域資源・社会関係資本・「私たちのE S D / S D G s」】
- →パートナーシップ:誰がそばにいる？誰とつながる？
- 【キーワード:共有・協働・共生・相乗効果・協創】



- 子どもが自信をもって発信している姿がすばらしかった。E S D の取組は様々あることが分かった。フリーに実践や意見の交流ができ、S D G s が少し理解できた。(推進校教員)
- 学校内だけでよくしようというのには限界がある。社会の力を借りながら、働き方や学習を改善していく必要を感じた。子どもに伝えるよさを知ったので、積極的に使い、保護者にも発信していきたい。(推進校若手教員)
- 他校の実践を知れたのが学びとなりました。普段気付かないことを他校と交流することで気付くことができました。(推進校教員)
- 企業も地域の一員として考える！という視点をいただきました。「地域」の捉えを見直します。(推進校教員)
- 子どもたちの発表や合間のつぶやきに、とても学ぶことができた。先生や様々な方とシェアできてとても楽しかった。(推進校教員)
- 委員会活動でS D G s など他校、異校種の取組が参考になった。E S D が校内で動き出すまでは、校長先生のエンジンが必要で、その力が教職員に伝わることで学校として動き出す。メンターチーム中心に形として見えるようにしている。(推進校若手教員)
- 教員以外の方とグループになり、新たな気付きや企業の思いを知り、学校としても企業と関わりたいので、「つながる」ようにしていきたい。今回の交流会のように、校内だけではなく校外に広がっていけるとよいと思った。(推進校教員)
- 子どもの活躍が見られて、とてもよかった。改めて課題や強みを見直す機会となった。これからいかに広がっていくか考えていきたいと思った。(推進校校長)
- 「自分事」と「協働・共創」の視点から、初参加の生徒がポスター発表やグループ協議に取り組めて大変よかった。様々な校種や職業と話をすることで、視点が多く得られた。(推進校校長)
- 自分の言葉で議論している子どもがすばらしかった。E S D の学習内容をS D G s 明らかにしたいと考えていたので、三保小のクロスカリキュラムは参考にしたい。(推進校校長)
- ポスターで堂々と発表し正直で率直な感想を述べている姿が印象的だった。出前講座などの取組のあり方を考えながら、「つなげる」お手伝いができればと思う。(環境創造局職員)
- 子どもたちと先生方の熱意がすばらしかった。午後は、先生方のがんばりと苦勞が伺えた。(一般大学教員)
- 様々な活動を知ることができ、生徒の活発さに感銘を受けた。E S D の実践やS D G s の普及具合について、改めていろいろ見つめ直す機会となった。協働・共有・共創・協力に向けて、出前授業で協力していければと思う。(研究所職員)
- ポスター発表で、学校は積極的にゲストティーチャーを招いていると知った。(N G O 職員)
- 学校によって多様な視点があり目を開かされた。学校が企業を求めていることが分かり、企業ができることが見えてきた。(学校とつながった企業役員)



文部科学省ではS D G s 達成の担い手の育成=E S D の推進(全国でE S D を広げ、深める様々な取組)に力を入れています。

800 名の参会者を得た横浜での第 10 回の記念となるユネスコスクール全国大会の開催にご協力に感謝します。

横浜では、4 つのレンズやホールスクールアプローチで、E S D 推進校の多様で深い学びがされていると伺っています。ぜひこの方向性で深め進めていただき、それを地域へ、全国へ、世界へ発信していくことで、全国のE S D 実践者の励みや力にもなるように期待しています。

文部科学省
ユネスコ国内
委員会からの
メッセージ

田村謙司氏



「わたしたちはこう考えます ESDとSDGs」 コンソーシアム委員から

■永田佳之（聖心女子大学）

SDGsを学ぶ際に大切なこと・・・それは知識習得のみならず、持続可能な未来につながる価値観や正義感を養うことだと思います。そのためにも横浜市教委発行のESD冊子（教職員研修資料と実践事例集）で紹介されている知見をぜひ活用して下さい。

■佐藤真久（東京都市大学）

ESDは、つなげて、見直して、グローバルに取り組みながら、社会を変えて、自身も変える、という、私たちの日常を持続可能なものにしていく営みです。取組は決して一人でできるものではありません。是非、多くの方々の力を持ち寄りながら、取り組んでいきましょう。

■大関泰裕（横浜市立大学）

2度目のオリンピックと万博が終われば、イイ(e)ね！エス・ディー・ジーズ(SDGs)と、社会は持続的な発展に目をむける。そして、もういらないものとこれから欲しいものを大胆に取捨すれば、コンパクトでスマート(高性能)な教育カリキュラムづくりは可能だ。あとは教育のプロとしての慧眼と勇気で。

■金馬国晴（横浜国立大学）

SDGs関連の実践は、難しいからこそ深まるものでしょう。持続させたいものは地球か人類かはたまた経済成長か。SDGsは、NGO・NPOだけでなく、各企業や地方自治体、政府も推進していますが、矛盾や対立が絡んでいるからです。それだけに、どんな意見も出てきてOKなのです！

■津野 宏（横浜国立大学）

SDGsは、「今」の世界の課題を広く集めて示したものと捉えることができます。一つ一つの課題を見ると正当なものでも、全体を見ると相互に矛盾を抱えていることに気がつくかもしれません。それだけ世界の抱える課題は複雑で錯綜しているのです。そして、状況は日々変化し、課題も変容していきます。常に新しく生まれる「今」を捉え、持続可能な将来について考える力を養うために、考えはじめる材料としてSDGsを活用してみましょう。

■住田昌治（横浜市立日枝小学校）

SDGsに遅れをとっている学校教育が担う役割も大きい。これからの学校教育は、ESDを推進することでSDGsの達成に貢献していかなければならない。持続可能な社会の創り手となる子どもたちが、地域の課題解決に向けた活動に参画し、リーダーシップをとれるように育んでいくことが求められる。

■米原あき（東洋大学）

SDGsは様々な課題を縦横無尽に繋ぐための「土台」で、ESDはその土台のうえで活躍する人を育てる機会である…のみならず、そこに集う人たちが共に学び、協働する契機でもあると思います。例えば、みなとみらい本町小学校では、『みなとみらいで皆と未来！』を掛け声に、学校内外の「皆」と繋がりながら「ESDによるスクールマネージメント&評価」を実践しています。ESDはそんな「皆」が出逢い、繋がり、持続可能な未来を語れる場であって欲しい！と思います。

■成田喜一郎（自由学園）

ESD2005-2014、GAP2015-2019にそれぞれ「、」が打たれ、2020年から後継のESDGsプログラム2020-2030が始まります。これまで実践してきた事実・事象を「鏡」としてみずからの実践を問い直し/見通す(Reflection)ことが必要ではないでしょうか。そして、それはEducationの訳語としての「教育」そのものをReflectionするチャンスでもあります。

■戸川孝則（横浜市資源リサイクル事業協同組合）

“誰一人取り残さない” 世界の実現に国際社会は大きく舵を切りました。その為のゴールがSDGsです。そして持続可能な社会に向け、数多ある社会問題の解決の為に、課題を本質的に捉え実行する能力がESDです。ですから私は、ESDは子どもたちだけの学習ではなく、私たち大人も含め誰もが備なければならないスキルだと思っています。

■中川隆政（生活科教育研究会）

『SDGsウォッシュ』とは海外で流行した『グリーンウォッシュ』から連想された言葉で、『うわべだけのSDGs』という意味になります。海洋プラスチック憲章署名拒否や国際捕鯨委員会脱退のように「政府がSDGsにそぐわない行動をすることや、うわべだけの取組に終わること」は、日本や日本企業への批判につながり、大きなリスク要因になります。



カリキュラムデザイン

本事例集のSDGs P16-33(除く23)

貧困	中和田中 南本番小 港南台第三小
飢餓	羽沢小 中和田中 大門小 新治小 南本番小 三保小
健康	戸部小 瀬田小 みなとみらい 南本番小 市ケ尾中 本町小
教育	OPEN YOKOHAMA
ジェンダー	市ケ尾中
水	いずみ野小 日枝小 三保小 風田小 みなとみらい 本町小
エネルギー	
働きがい	南本番小 三保小 市ケ尾中
イノベーション	羽沢小 港南台第三小 南本番小 金沢小 中和田中 三保小
平等	港南台第三小 市ケ尾中 戸部小
まちづくり	OPEN YOKOHAMA
生産消費	OPEN YOKOHAMA
気候変動	永田台小 みなとみらい 日枝小 三保小 本町小
海	金沢小 日枝小 みなとみらい 永田台小 南本番小 本町小
陸	OPEN YOKOHAMA
平和公正	戸部小 みなとみらい 市ケ尾中 本町小
パートナーシップ	OPEN YOKOHAMA

東高校

市ケ尾中

中和田中

永田台小

幸ヶ谷小

瀬田小

羽沢小

みなとみらい
本町小

戸部小

日枝小

金沢小

港南台第三小

本郷小

南本番小

いずみ野小

大門小

本郷小

北郷島小

三保小

新治小

風田小

菅田西小

学校運営



1 貧困をなくそう	
2 飢餓をゼロに	
3 すべての人に健康と福祉を	
4 質の高い教育をみんなに	OPEN YOKOHAMA
5 ジェンダー平等を實現しよう	
6 安全な水とトイレを世界中に	
7 エネルギーもみんなにそしてクリーンに	
8 働きがいも経済成長も	OPEN YOKOHAMA
9 産業と技術革新の基盤をつくろう	
10 人や国の不平等をなくそう	
11 住み続けられるまちづくりを	OPEN YOKOHAMA
12 つくる責任 つかう責任	
13 気候変動に具体的な対策を	
14 海の豊かさを守ろう	
15 陸の豊かさも守ろう	
16 平和と公正をすべての人に	
17 パートナリシップで目標を達成しよう	OPEN YOKOHAMA



多くの推進校で取り組まれている目標は OPEN YOKOHAMA で示しています。



文部科学省

この実践事例集は、文部科学省ユネスコ活動費補助金「グローバル人材の育成に向けたE S Dの推進事業」の補助を受けて作成しています。

全ての横浜市立学校でE S Dの理念に基づく教育が広まっていくように、横浜につながる学校、大学、N G O、企業等が連携している「横浜市E S D推進コンソーシアム」をつくり活動しています。

コーディネーター 永田佳之（聖心女子大学）佐藤真久（東京都市大学）

横浜市立大学・横浜国立大学・東洋大学
自由学園・WWFジャパン・JICA
横浜市資源リサイクル事業協同組合・生活科教育研究会
横浜市環境創造局・温暖化対策統括本部・総務局

監 修 : 横浜市E S D推進コンソーシアム

発 行 : 横浜市教育委員会 平成31(2019)年2月

問い合わせ : 指導部指導企画課 ky-esd@city.yokohama.jp

